

国道17号自転車通行空間整備 専門家による技術的アドバイス 実施概要

●実施の趣旨

国道17号武蔵浦和駅周辺地区における自転車通行空間整備にあたり、埼玉県内初となる夜間の視認性を向上させるための新しい路面表示について、現地にて専門家から技術的アドバイスを頂きました。

●実施日時 平成27年10月27日(火)19時00分～19時40分

●実施場所 国道17号さいたま市南区別所1丁目地先

●専門家

埼玉大学大学院 理工学研究科

久保田 尚 教授

「埼玉県道路交通環境安全推進連絡会議アドバイザー会議」委員長

「安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会」委員

関係機関

埼玉県警交通部 交通規制課、浦和警察署

埼玉県県土整備部 道路環境課

さいたま市土木部 道路環境課

●実施概要

矢羽根型路面表示の模型を現地に設置して、路面表示の設置間隔や夜間の視認性について久保田教授に確認していただき、技術的なアドバイスを受けました。



実施場所



国道17号自転車通行空間整備 専門家による技術的アドバイス 実施概要

●技術的アドバイスの内容

・矢羽根型路面表示の設置間隔、夜間の視認性を向上させた仕様(白線の材料、長さ)について、以下のアドバイスをいただきました。

(1)矢羽根型路面表示の設置間隔

- ・経済性も考慮すれば、直線部であれば10m間隔でも十分視認性はある。
- ・5m間隔だと、遠くの方が少しにぎやかな感じがする。

単路部:10m間隔



単路部:5m間隔



(2)白線の材料

- ・高輝度の場合遠くまでよく見える。車からも視認性がよい。
- ・高輝度と通常のJIS標準タイプのものを並べてみるとよくわかる。

高輝度タイプ



左側: 高輝度タイプ / 右側: JIS標準品



国道17号自転車通行空間整備 専門家による技術的アドバイス 実施概要

(3) 白線の長さ

- ・長いほうが安心感がある。また、ラインのように連続的に見えて自転車からも認識しやすい。
- ・ここからは自転車が通行する範囲であるというのが、しっかりわかる。
- ・コスト面であまり変わらないのであれば、長い方がよいと考える。

白線長さ45cm



白線長さ60cm



白線長さ45cm



白線長さ60cm

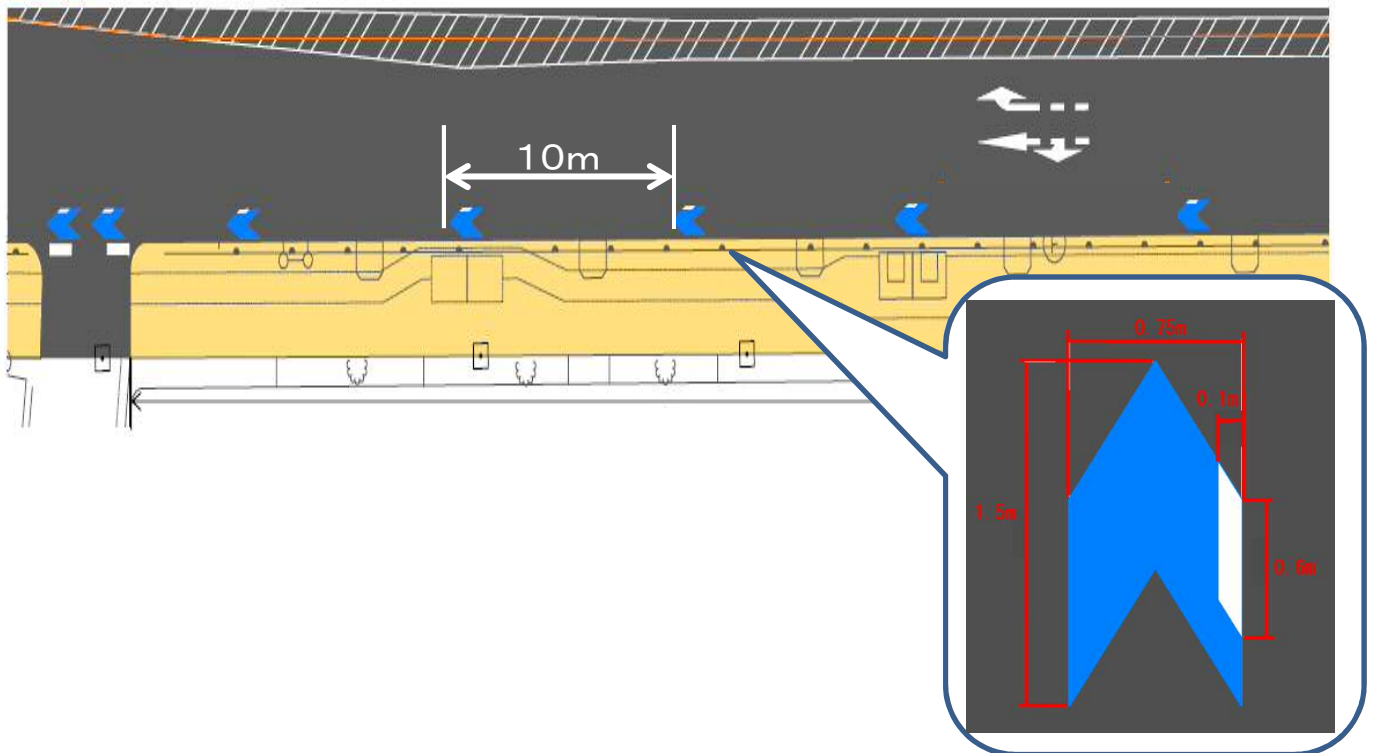


●講評・総括

- ・検討委員会等における図面上での確認よりも、実物を見て、より安全性が向上することを確認できた。
- ・本日の成果を今後の検討委員会において参考にしていきたい。

国道17号自転車通行空間整備 専門家による技術的アドバイス 実施概要

●技術的アドバイスを踏まえた矢羽根型路面標示の夜間視認性向上策 整備イメージ図



【参考】安全で快適な自転車利用環境創出の促進に向けた中間とりまとめ(平成27年8月)で示された矢羽根型路面表示の標準仕様(案)
「安全で快適な自転車利用環境創出の促進に関する検討委員会」資料より抜粋

【図10 矢羽根型路面表示の標準仕様(案)】

	形状	配置	
		歩道あり	歩道なし
仕様(案)	<p><標準形></p> <p>幅=75cm^{※1} 長さ=150cm 角度=1:1.6</p> <p>道路幅員が狭く、歩行者を優先させる道路(生活道路など)では、必要に応じて、以下を採用。</p> <p>幅=75cm 長さ=60cm 角度=1:0.8</p>	<p>設置間隔=10m^{※2} 1m以上^{※3}</p>	<p>設置間隔=10m^{※2} 1m以上(75cm以上^{※4})</p>
備考	<p>※1:幅は、実験で80cmの評価が高かったものの、道路構造令における車線幅員の最小単位25cmを考慮し75cmとした。</p> <p>※2:設置間隔は、実験で5m・10mの評価が高かったものの、経済性を考慮し、10mとした。なお、交差点部(細街路交差点を含む)では、自転車の通行位置をより明確に示すため、設置間隔を密にする。</p> <p>※3:舗装部分の幅員は、側溝の部分を除いて確保することが望ましい。</p> <p>※4:現地の交通状況に応じて、75cm以上とすることもできる。</p>		

【図12 矢羽根型路面表示の夜間視認性向上策の例】

